

川内南) 令和コミュニティトーク **要約**

日 時：令和6年7月30日（火） 14：00～15：15

場 所：セントピア 視聴覚室

出席者

市：田中市長、永田副市長、未来政策部長、建設部長、秘書広報課長、コミュニティ課長

地 域：川内南中校区の2地区コミュニティ協議会コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民35人

（合計59人の参加）

1 地区振興計画について

【限之城地区】

- ・第5期地区振興計画の重点3項目は、まず、「地区コミュニティ協議会内自治会ブロック編成の見直し・地区コミュニティ協議会組織の見直し」である。現在、限之城地区コミュニティ協議会は8つの部会があるが活動内容が似ている部会もある。そして、部会ごとの構成員が高齢化し減少している。そのため、部会を新設し、志の近い部会で構成していきたい、理事会の合併なども含め、役員会で協議していきたい。これについては、地区組織とは違い、自治会ごとの考え、財産、支援など、それぞれの事情を抱えているため、時間をかけて進めていく。
- ・次に、「若い世代の参加しやすい地域づくり」である。限之城小学校のせんだんの木イルミネーション事業やくまのじょう夏祭りに子どもが参加し、保護者や若い世代の方々に参加してもらうことで地区コミュニティ協議会の活動に興味を持ち、少しでも顔を出してくれるような地域を作っていきたい。
- ・最後に、「大原野池のパークゴルフ場の利用活用」についてである。現在、パークゴルフ場利用者は月に、延べ1,000人を超えている。しかし、多目的公園であるがパークゴルフ場以外の利用については、まだまだ改善していかなければならないため、地区コミュニティ協議会主催のマルシェや軽トラ市、キッチンカーイベントなどを計画していきたい。

【永利地区】

- ・永利の特徴は、「豊かな自然」、「のどかで住みやすい」ことであり、4自治会は宅地造成が進み、人口が増加している。しかし、元から地域に住んでいた人と新たに住み始めた人たちで意見が合わないことが多々ある。
- ・自治会加入率は、令和3年度75.6%だが、現在は71.5%である。宅地造成が進んでいる4自治会の加入率は増加しているが、一方で、自治会の高齢化が進み子供がいないため、人口の減少とともに加入率が減少している自治会もある。コミュニケーションを重視し、見守りや災害時などの有事に備えたい。
- ・重点3項目については、1つ目に「支え合い安全安心に暮らす地域づくりをめざそう」である。6月に自治活動部会で小地域ネットワークを1年に1回実施する。自治会長、アドバイザー、民生委員、児童委員、社会福祉協議会の支え合い推進が集まり、子供から高齢者までの全住民が、地区を自分たちのものとして育てていく事業計画・目標を語り、地域福祉の観点により、住みなれた地域で安心安全に暮らせるよう、支え合いの仕組みを目指すことを考える場としている。コロナ

禍が解け、去年から4年ぶりに再会して2回実施したが、さまざまな意見が出ている。これについては、継続していくことを大事だと考える。

- ・2つ目に、「みんな健康に暮らせる地域づくりを目指そう」である。コミュニケーションを重視し、ソフトボール、バレーボール、世代間交流グランドゴルフ大会、50周年の節目を迎える日笠山駅伝などがある。
- ・3つ目は、「自然と環境にやさしい地域を目指そう」である。花いっぱい運動・活動のことであるが、尾原の本霧島を地区コミュニティ協議会で植樹し、草刈をしている。成長し、年々見学者も増えている。
- ・日笠山の清掃もしており、市街地がよく見える。東側の木を伐採し、元旦の日は初日の出登山を地区で行っている。

市長コメント

- ・前回の地区振興計画は令和元年から令和5年度で、コロナ禍真っ只中であり、強い影響を与えイベントも中止延期など滞り感があった。その間に、隈之城地区、永利地区ともに人口は多いが、高齢化が進み、人口も減少している。各地区の方と話しをすると、市民の意識の中にも地区との関わり合い、イベント開催についてコロナ前後で少し変化が出てきているというようであった。
- ・新しい地区振興計画には、これまでの振り返りを踏襲しながら、声かけ、見守り、環境美化、防災、イベント、祭り、ハード整備などさまざまなことが挙げられている。これからの各地区コミュニティ協議会の活性化の方法の1つとして、これまでも行われてはいるが、子、親、祖父母の3世代が一緒に参加できるイベントの実施がある。2つ目にひな祭りのリレーが最近2年間で盛況であるが、他地区コミュニティ協議会と連携しながら、同時期にイベントを共催する方法が人の行き来があるため、盛り上がるのではないかと考える。また、地域の自然資源、歴史資源も改めて見直し、地区自身の人が見直し、他地域の人を呼び込むことが大事だと考える。
- ・隈之城地区の人口が1万2,000人、永利地区が6,200人で、薩摩川内市48地区の中でも大きな方である。最も小さな地区コミュニティ協議会は15人、最大が平佐西地区で人口が増え続けている。薩摩川内市の地区コミュニティ制度も20年経過することとなるが、15人から1万4,000人の中に、隈之城地区と永利地区はあり、地区コミュニティの活性化は共通する部分と個々に分けて話をしなければわからない部分があるので、このような場面でご紹介いただく、市役所と地区コミュニティ協議会の意見交換は大事な場である。
- ・自治会は550あるが、最も少ない自治会の人口は8人で、最も多い育英地区の鶴峯自治会は1,700人である。
- ・薩摩川内市は、9つの市町村が対等合併した。20年前川内市は約7万人、人口2位の樋脇町が7,000人で、第9位の人口が鹿島村700人であった。9つ市町村が100:10:1の人口落差の中で対等な議論を行い薩摩川内市が誕生している。合併以前から地区による人口の格差があり、それが今も続いていることは必然的なことであることをこの機会に改めてご認識いただきたい。人口減少は続く傾向にあるため、これからはお互いが繋がり話し合っていく共助の仕組みを続けていかなければならない。日本全体的に人口が減少していく傾向にあることを前提に維持・活性化させるための方法を絶えず、地区コミュニティの各々で議論していかなければならない。

- ・市役所としても人口減少を少しでも食い止めるために、子ども・子育てに対する支援を続けていく。また、社会増減における転入転出についても、薩摩川内市内の若者、中学生、高校生、短大生が、薩摩川内市内の企業に就職していただくことで転出を少なくし、一方で帰ってくる人を増やす転入の増加をさせることで定住人口を増加させていきたい。

2 市政の動向について

(1) 主な動き

- ・南九州西回り自動車道建設促進の決起大会を11月8日に開催した。
- ・1月4日には、薩摩川内市誕生20周年記念懸垂幕のお披露目式を実施した。
- ・1月27日には、川内原子力発電所に関する市民セミナーを市役所、国、県合わせて6機関で初めて薩摩川内市で開催した。
- ・2月10日には、県の原子力防災訓練が実施され、2月11日に生涯学習フェスティバルが開催された。
- ・3月10日には、肥薩おれんじ鉄道も20周年の節目を迎えた。
- ・425年の伝統を誇る川内大綱引が重要無形民俗文化財に3月21日に指定された。
- ・4月1日は市誕生20周年記念事業推進本部設置と、こども家庭センターの設置があった。
- ・4月2日には、川内港の高速船の就航が10周年を迎え、記念セレモニーが開催された。
- ・4月15日に、バレーボール女子日本代表チームが合宿を行った。
- ・4月24日は、川内港関係で韓国への定期コンテナ航路が開設して20周年を迎えた。
- ・4月29日には、旧市民会館跡地にセンノオトがオープンし、素晴らしいにぎわいで、市民の方が求めていることがここに凝縮していると考ええる。
- ・5月18日には、南九州西回り自動車道阿久根川内道路決起大会を実施した。

(2) 令和6年度当初予算のポイント

- ・令和6年度予算は、一般会計で575億円であり、過去20年間で最大であった。当初予算の中でも特に、子ども・子育て支援、コミュニティ・自治会活性化、産業人材確保・移住定住、人手不足解消の政策、市誕生20周年記念事業の6項目に力点を置いて取り組んでいる。
- ・子ども・子育てについては市も力を入れており、当初予算の15%の88億円の財源を充て、子育て応援券、産後ケアに対する支援の拡充を行った。18歳以下の子ども医療費の窓口負担を来年度からゼロにする方向で議論を進めている。また、学校給食費の補助に関しては、学校給食費を1年間無料にすると一般財源で5億円かかるため、この中の8,000万円を市で今後補助するような仕組みを作った。
- ・自治会運営交付金、地区コミュニティ協議会運営交付金についても見直した。自治会と地区コミュニティ協議会に対する補助金は年間2億円である。
- ・産業人材確保・移住定住については、働く人を確保しようということで、若者就労について、市内の中学生、高校生が薩摩川内市の企業に就職した場合、10万円分のポイントを付与する事業を今年から始めた。また、奨学金の返還支援も、これまでの年間1人200万円補助を最大300万円まで拡充した。今年の受付分から

300 万円補助が適用されるため支払いは7 年度からである。奨学金返還については今後5 年間集中的に取り組むこととしている。また、介護人材、漁業関係についても人材確保の新規補助金を措置している。

- ・20 周年事業については、冠事業、市主催事業を数多く実施している。特に、川内大綱引については、425 年の伝統の中で国の重要無形民俗文化財に指定され非常に素晴らしいことである。
- ・全地区コミュニティ協議会を対象に DX スマホ教室を実施予定で7 月から12 月に48 地区すべて行う。
- ・地区サポーター制度として48 地区に市職員を連絡調整役として配置している。

(3) コミュニティ活性化策

- ・自治基本条例を20 年ぶりに改正し、自治会活性化と自治会加入促進を図っていく。具体的に現場において、一人一人の市民の方の自治会または地区への関わり方はお互いの働きかけ、理解の促進が必要である。
- ・自治会再編における合併協議に要する補助金を見直した。市制度に対する助言や会議がある場合に市職員も派遣し、進め方や市内先行事例に関する情報を提供するので、コミュニティ課にお尋ねいただきたい。

(4) 空き家対策

- ・空き家改修サポート事業などについては、個別に相談がある場合は所管課にご相談いただきたい。
- ・今年は薩摩川内市全域で空き家の規模、総数に関する実態調査を7 年ぶりに実施する。

(5) 川内港 唐浜地区 国際物流ターミナル整備事業

- ・川内港の整備状況は、県事業の部分と国事業の部分があり、市、市議会、川内港利用者で、県と国に対し、期日通りに整備の実施をしていただくように要望を続けている。

※令和5 年度令和コミュニティトークの意見の進捗状況について

- ・昨年の令和コミュニティトークは、時期的に川内原子力発電所の運転延長の議論が進む時期であったため、会場から運転延長に関する御意見を複数いただいていた。昨年の令和コミュニティトークの後、12 月25 日・26 日に田中市長と大田黒議長が、国、鹿児島県、電気事業者に対して安全性などに関する要望をさせていただいた。その際に、令和コミュニティトークにおいて他の会場で出た意見も含め、地元の方々が心配されていること、説明の責任を果たして欲しいこと、より安全に運転をしていただくことについて要望活動を行った。また、原子力防災のしおりについて、もう少し見やすくして欲しいという御意見いただいたが、印刷物であるため急には変えられないが、見やすくなるように検討を進めている。
- ・消防後援会の御意見もいただいた。消防協力費、後援会協力費などの徴収方法については、地域の任意団体という取り扱いであるので、会費を市が代わりに徴収するのは難しいため、地域での協議をお願いしている。
- ・市職員の自治会活動への関わり方については、日頃から市職員に対し、地域活動、自治会活動に積極的に参加するように周知している。今回、市長から説明があったように、地区サポーター制度を設けた。これまではゴールド集落の支援員、地区振興計画の策定に係る支援員の位置付けであったが、今後は地区の活動全般についてのサポーターとして必ず配置するようにしたので、職員に対する地域活動

への関わり方についても、再度声かけをしていきたい。

3 事前提出議題

議題1 市と地区コミュニティ協議会 ユニティ協議会との約束の完全履行について (市道宮崎・勝目線の新幹線高架下交差点から勝目までの整備) 【隈之城地区】

この路線は、産業廃棄物管理型最終処分場周辺整備事業として整備することが決定され、現在、太田機工付近から新幹線高架下交差点が完成した。令和6年度も引き続き、勝目側に沿って整備が進むものと認識していたが、令和5年度をもって事業に充当した助成金が終了したため、今後、勝目方面の道路改良は周辺の道路状況を見ながら整備区間も含め検討する方針だと聞き及んでいる。この整備事業については、助成金の範囲内で整備を行うとの条件が付けられていない。当時、そのような条件が付けられていなかった以上、今年度も事業を継続していただくよう強く要望するという御意見であった。

回答としては、市道宮崎勝目線の道路整備は当初計画1,340mの計画であった。高架下までが約920m完了しているが、残り420mについても年次的に整備を進めたいと検討しているため、終わりというわけではない。今年度は、勝目の終点から県道までの間の舗装工事を発注しようとしている。この路線について事業が止まっているということではないので、ご理解いただきたい。

【意見：隈之城地区】

元々の話では、道路拡幅をするという計画であり、舗装して終わりというわけではないことを認識していただきたい。

建設部長

宮崎の太田機工側から宮崎交差点の箇所については、今まで農業用水路があったところを暗渠化し、結果、水路があった部分が埋め立てられ道路が拡幅されるという整備手法を行っている。残りの区間についても同様に農業用水路を暗渠化し、その用地も含めて結果的に道路が広がるというような整備手法をとっていきたい。ただ、一遍にはできないので、年次的に整備を進めていく。周辺に舗装が悪いところがあったため、先行的に舗装の整備を計画したところである。

【追加意見：隈之城地区】

舗装整備の計画は、県道から勝目団地の下の方を先にされるということか。

建設部長

宮崎橋のところから宮崎側に向かうところ、橋の近くのところの舗装を計画をしている。

4 フリートーク

(1) 地区振興計画について

特になし。

(2) 市政の動向について
特になし。

(3) その他（地域が抱える課題等について）

【意見：隈之城地区】

原子力発電所の延長問題の件である。40 年前に原子力発電所ができ、運転が 20 年間延長されるが、電源立地地域対策交付金も同様に 20 年延長される。

九電は 1,400 億の黒字を出しており、薩摩川内市で発電した電気を熊本、福岡などに提供しているが、薩摩川内市の市民が難儀な思いをしているのに対しての見返りが何もないような感じがする。

また、市からの支援については、物価上昇に対し、子育て支援とかいろいろあるが、年配の方の年金もそれほど上がっておらず苦労している。高齢者に対しての対策がなかったような感じがするが、それについてはどのように考えておられるのか。国民健康保険税が 10 月から今までに比べて 2 万円あがったが、それをハガキ 1 枚でお知らせしている。そういう部分が市民に寄り添っているのかと思う。年金生活者にとって、2 万円あがるというのは大変なことである。

市長

川内原子力発電所についての考え方は、50 年以上市民の方とさまざまな議論を経て今日に至る。ご質問いただいた運転延長については、市長就任時からずっと考え続けており、市役所内に関係部局長の政策部会を立ち上げ、令和コミュニティトークの中でも特別議題として運転延長、特別点検のことで皆様の御意見をお聞きした。そして、市議会の意見、国の検査結果を踏まえ、昨年 12 月 25 日・26 日に、九電、県、国などの 5 機関に大田黒議長と陳情し、1 月には市役所を入れた 6 機関で、初めて合同の市民セミナーを開始するなど、非常に慎重な姿勢でいる。

交付金については、概数で 1・2 号機からの交付金は令和 6 年度 15 億円あり、市民生活に有効に利用されている。また、使用済み核燃料税という市独自の税があり、令和 6 年度から値上げをした。この値上げ分が 6,500 万円あり、自治会補助金の防犯灯の電気代の値上げ、消防団員の年額報酬の値上げ分に充て、広く市民の方々に行き渡るように令和 6 年度から利用している。

運転延長に対する新たな交付金に関する御質問に対してである。1 号機が 20 年間、今年の 7 月から 40 年延長になり、令和 6 年度からプラス 1 億円が 20 年間交付される。この 1 号機の 1 億円については、子ども医療費助成と給食費の一部補助に割り振っている。子育て支援に新たな 1 号機分の歳入を使っている。なお、2 号機分については、来年 11 月が 40 年延長であるため、2 号機分については令和 7 年度からプラス 1 億円が 20 年間交付されるので、市民の皆様のいろいろな御意見をお聞きし、市議会にも相談しながら議論することになる。

運転延長交付金の仕組み上、鹿児島県に 25 億円以内が交付される制度があるため、立地自治体として、県の方にも市議会からも応分の取り分を要求しなさいという意見もあることから、安全安心と地域振興のために、鹿児島県に交付される 25 億円の応分を市民の方々に対する福祉向上に使いたいと考えているため、今後協議を進めていく。

高齢者福祉関係で、年金生活者の方の 2 万円増加というのは中身を調べさせていただきたい。

【意見：永利地区】

部落によっては15人ぐらいしかいない状況であり、あと10年もすれば消滅するかもしれない。その中で、活性化や人口増加への方策が見えない、薩摩川内市に未来がないような気がして残念である。私は、15年前にUターンで帰ってきたが温泉もあり良い地域だと思う。

現在、出生率は、東京でさえ0.9%ぐらいしかなく、私が所属する自治会は出生者がいなかった。そのような状況であるならば、高齢者も消費者であるので、都会からUターン・Iターンで呼び戻す方策が必要だと思う。定住政策がその一つではあるのだろうが、10万であった人口も8万人に減少し効果がなかなか現れていない。その状況の中で、介護予防元気度アップ事業はいい制度である。健康で長生きすることに繋がる制度であるが廃止するようなことも聞いている。廃止するのではなく、高齢者が健康で長生きできる地域になるために必要な制度である。

市長

令和6年度当初予算のトピックで申し上げたように人材確保・移住定住には力をいれている。例えば、市内の雇用確保という面では、半導体企業を中心に年間200人、300人の方が就職し、上川内地域には住宅も増え、若い人が増えている。

市の少子化対策と子育て政策については、6月議会でも活発なご指摘をいただいている。組織については、こども家庭センターの話でもあったように、児童福祉と母子保健について目に見えて使いやすい組織にできないか検討し、予算についても、市役所の一般財源や交付金の予算の組み立て、どれに力点を入れていくかの議論を開始しており、令和6、7年度にかけて薩摩川内市の少子化対策と子育て支援の実行計画の策定に着手することになっている。

自治会の人数が減少しているが、できる限り最低限の自治会活動はしていただきたい。しかし、どうしても厳しい場合は、合併について検討していただきたい。例えば、樋脇町地域内では2ヵ所、入来町地域でも具体的に合併協議が進んでいる地域もある。自治会における合併などの話があれば、地区サポーター制度の活用、市職員にお尋ねいただきたい。

高齢者福祉関係においては、令和元年度に終了していたサロン活動の補助金を令和6年度から復活させた。ご要望があれば、内容、金額のことを含め、少しでも高齢者の皆さまの元気が出てくるような政策を議論していきたいと思っているので、引き続きいろいろなアイデアをいただきたい。

【意見：隈之城地区】

隈之城川周辺の除草作業については、このまま作業を続けていただけるのか。

また、数十年前、私が隈之城小学校に通っている頃に、教室の床が洪水で浸かったことがある。近年、線状降水帯によって堤防から越水するなどの問題があるが、隈之城小学校近くの堤防をかさ上げる計画があるのか。

川内小学校手前の河川の川幅が狭く、川の中に橋桁があると水がはけない。加えて、木やゴミが溜まってしまうため、更に水はけが悪くなり洪水になってしまうこともある。そのため、それに対する対応方針はあるのか。特に、日暮と冷水の周辺の川幅を広げる計画はあるのか。

市長

隈之城小学校の床上浸水があった件について、令和2年度にも集中豪雨によって3河川が越水し、床上浸水があった。現在、特定都市河川という方法で、隈之城川流域の広い流域を、国指定による地域指定をし、遊水地の造成など、浸水が起きないような負荷を課す制度を議論しており、国、県、市で隈之城流域の特定都市河川についての協議を進めている。

少し時間もかかる部分もあるが、段階的な整備によって田んぼ、ダムを造成、宅地を作る場合に高さのある程度以上まで上げるといったような義務的措置を課すことによって、浸水を起こりにくくしていきたい。

建設部長

まず、隈之城川の伐採について。隈之城川は、県管理河川であり、鹿児島県が管理している。そのため、県が伐採をしているが、伐採が終わっていないところは継続的に伐採をしていただくように、市から鹿児島県に地元から要望があったことを伝える。

また、日暮、冷水付近の河川拡幅計画があるかについては、日暮、冷水は、隈之城川流域であるため、流域として隈之城川の脆弱な箇所の確認、河川改修の必要性や方法の検討などについて、国、県、市で今後協議をしていく。その中で、地元の方からの声も伝えながら、流域治水の計画を作成するようにしていきたい。

【意見：隈之城地区】

防犯灯電気料金の自治会負担の軽減について、平成元年に要望書を提出させていただいた。そして、今年度から薩摩川内市内の全自治会の電気料の負担が全額軽減されたことに対し、感謝申し上げる。今年度の総会資料に掲載し、自治会放送でも周知したところである。

私は、自治会総会や役員会では、自治会組織が強固でなければ地域は弱体化し、薩摩川内市の勢いが減退してしまうこと、自治会組織の皆さんで自治会組織の活動を充実させていきたいというような話を年に最低1回はしている。隈之城地区コミュニティ協議会会長がおっしゃる「向こう3軒両隣」という言葉が大好きであるのだが、このような考え方で絆を深めていきたい。防犯灯の電気料金の全額負担を実現していただいた分、自治会の活動予算が増えたので、自治会組織を強固にするために、会員数が増加する施策も若い方々と一緒に考えていきたい。

【意見：入来地域】

地域猫の不妊・去勢手術の補助金に関する件について、助成金がどのようにして出されるようになったのか経緯をお聞きしたい。

捨て猫の問題で、私たちは2018年に協議会を発足し、2019年3月に100万円という交付金が決まった。しかし、何人もの人たちに足を運んで協議会に参加してもらい、書類も全部できたのにかわらず、理由も聞かされず駄目になってしまった経緯がある。

市長

補助金制度を議論する中でいろいろな変遷があったということは聞いている。今回、市民の方から署名が出され、議会からの質問もあり、獣医師会とも協議を行い、

他市の事例も参考にしながら、過去の結果を踏まえ、地域猫の不妊・去勢手術の補助金が薩摩川内市にとって必要だという判断をし、支援を新設するに至った。

【意見：隈之城地区】

6月20日に豪雨災害があったが、都で2ヵ所崖崩れがあった。その際、防災担当者が直ぐに対応してくださった。被災された2名の方が凄く喜んでいた。お礼申し上げる。

私は4月から自治会長になり、高速道路の水が流れてくることが原因であると思うのだが、毎年雨が降るたびに都川が溢れている。私の家の近くに井堰があるのでそこを流せば良いのではないのかと思う。また、高速道路下の都川の法面の芝が流されている箇所がある。このような場合、どこに相談すれば良いか。

未来政策部長

- 1点目は、防災安全課を含め、担当職員にも伝え、より精進するように伝える。
- 2点目は、現場の確認をさせていただきたい。

建設部長

先ほどの件は、場所などを確認し、市河川か、県河川かも含め、都川も隈之城川流域の一部であるので、今後の対応を踏まえ現地に伺う。